



明治以降、たたら製鉄は洋式(高炉)の製鉄法に押されて次第に衰退する一方、近代化・企業化が図られていきます。その足跡は山間のたたら製鉄地帯と沿岸の港湾地帯に見ることが出来ます。

鳥上木炭銑工場角炉

くたたら近代化

安来製鋼所が大正7年に奥出雲町鳥上の地に建設した工場で、真砂鉄を原材料として鉄を製造しました。角炉は操業ごとに築炉し直す必要があります。効率が良いため、砂鉄を用いた原料鉄の安



▲安来港と安来の町並み。中央の山は港の目印となった十神山(標高92m)。

安来港と安来の町並み

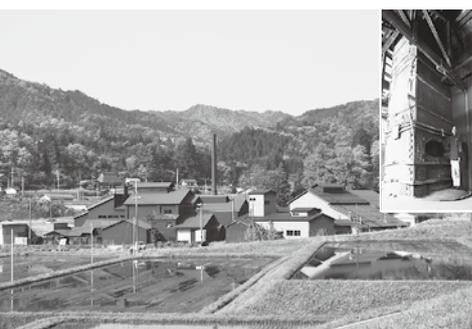
くハガネの町今昔

江戸から明治時代にかけて、安来は周辺の山間部で生産された鉄

日本遺産「出雲國たたら風土記」鉄づくり千年が生んだ物語

連載4 たたらの近代化

定供給が可能となりました。生産量と品質の向上を実現した、たたら近代化を象徴する工場です。昭和40年まで稼働して刃物や工具などの高品質なヤスキハガネ製品の生産を支えました。



▲鳥上木炭銑工場の遠景と角炉の様子(右上)。

を北陸や関西へと運ぶ鉄の積出港として栄えました。その後、明治後期には地元資本の会社がたたら製鉄の伝統技術を近代製鋼技術に発展させ、良質の鉄鋼を生産するようになりました。この流れが現在でもヤスキハガネとして息づいています。

安来の港と町並みは、商いの街から鉄鋼生産の町へと歩んできた「ハガネの町安来」の歴史を物語っています。

たたらに関する出前講座を実施します。詳しくは和鋼博物館(電話23・2500)へ。



企画展「山本陶秀と青戸慧ー日本の心を見るー」

青戸慧「蹴鞠」を公開中

安来市加納美術館だより 電話36-0880

安来市加納美術館では、企画展「山本陶秀と青戸慧ー日本の心を見るー」を開催中です。

安来市黒井田町に生まれた青戸慧は、上京して同郷の西田明史に師事して彫刻を学び、17歳の時に商工省工芸展に出品した塑像作品が初入選。その後多くの塑像を作り続けましたが、1948年に鹿児島寿蔵の紙塑人形に出会いました。

楮紙を染色し、小さくちぎって幾度も貼り重ね、磨き出してつくる紙塑人形。その素晴らしさに魅了された青戸はコツコツと努力を重ね、ついに紙塑人形

界の第一人者になりました。

今回、日本の神話を墨彩画と紙塑人形で楽しんでいただくとともに、ふるさと安来の伝説をテーマにした作品を多数展示しています。

注目の作品は「蹴鞠」。サッカー日本代表チームが海外遠征する際に、対戦相手国の元首に贈った作品として有名です。

なお、1月29日(日)13時30分から重田雅彦氏の講演会「山本陶秀の世界」を開催。参加は無料です。楽しく分かりやすいお話です。どうぞお越しく下さい。



▲青戸慧「蹴鞠」

《会期》3月13日(月)まで。なお、12月25日(日)から1月10日(火)と毎週火曜日は休館。
《開館時間》9時から16時30分。ただし入館は16時まで。
《入館料》一般1000円、学生(高校生以上)500円、団体(20人以上)800円。